

木材価格市況標準相場

令和5年6月2日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	1
合板	1
(2) 値下げ品目	19
秋田	3
平角	1
東海材	1
国産材構造材	3
南洋材・中国材	2
米材(製品)	2
北洋材・北欧材	4
合板	3

○今月の市況動向

昨年6月の委員会では、値下がり品目は0(ゼロ)だったが、そこから値下がり品目が増え続け、今年に入り、1月は21品目、2月は21品目、3月は34品目、4月は27品目、5月は22品目となった。品目によっては、ウッドショック前のところに値が戻ったものもある。しかし、輸入材等の現地価格は底を打ったという様な話もあり、円安の影響等で、展開が変わって行くことを期待している。

(国産材)秋田杉の原木では、16~40cm上の全ての径級で11,000円~11,500円/m³と、ほぼ横並び状態とのこと。構造材は、荷動きが悪い状態が続いており、大型メーカーは生産調整を行っているが、在庫は「荷もたれ感のある状態」との報告。東海材では、注文材の動きは良く、吉野材でも、一般住宅資材の動きは悪いが、店舗関係の仕事は出てきているとの報告もあった。

(輸入材)現地コストは限界だが、荷動きも悪く、入出荷、在庫量共に、低調との報告が多かった。米材製品では、WFP社がカナダ樺の生産を増やし、米松に比べて競争力のある価格を提示してきた。米材役物は相変わらず現地は強いとの報告。

(合板)国内針葉樹合板では、メーカーの減産効果もあり、底値に近付いている雰囲気があるとの報告。値を上げた輸入ラワン構造用合板は、下がり過ぎた価格が、少し戻ったとの説明。他のアイテムにおいても、全国主要港の在庫は大幅に減少している。